

衣生活における特別なニーズ 乳がん術後女性のおしゃれを応援します

千葉大学提供
作成日 2016年2月22日
更新日



研究者氏名 やたがい まみこ 谷田貝 麻美子	所属機関 千葉大学教育学部	関連キーワード 被服学 看護学 衣生活 QOL 快適性 インクルーシブデザイン 乳がん術後用補整下着・補整具
主な研究テーマ 乳がん術後の衣生活における諸問題 胸部形状に左右差のある乳がん術後女性の補整下着・補整具に関する不具合解消のための基礎的研究 乳がん術後女性の衣服内気候からみた温熱的快適性		主な採択課題 挑戦的萌芽研究 平成20・21年度(配分総額:2,000千円) 課題名「術後乳がん患者の衣生活の現状と課題」 基盤研究(B) 平成22～25年度(配分総額:18,460千円) 課題名「被服学・看護学連携による乳がん術後女性の装いを支援する多角的取り組み」

科研費による研究成果

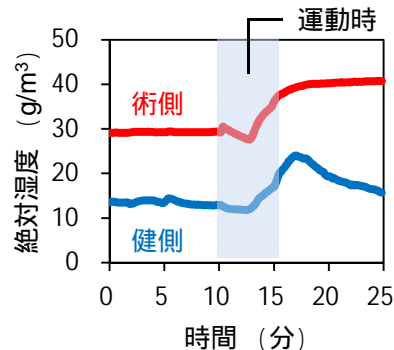
乳がん術後女性は、胸部形状の変化や治療の副作用・後遺症のために、下着をはじめとする衣服にさまざまな不具合を感じ、衣服の選択や着装に制約を受けることが少なくない。

本研究課題では、被服学と看護学の研究者が連携して、乳がん術後女性のQOL向上を目的に、衣生活の現状と課題を明らかにし、その改善の方策を探るため、多角的な取り組みを行った。

乳がん患者・体験者を対象とした質問紙調査の結果より、とくに術後用補整下着・補整具について早急な対応が求められていることがわかった。そこで、被験者による着装実験を実施して、温熱的快適性や身体適合性等の不具合の実態とその解消のための基礎データを蓄積した。

シリコン製パッド装着時のパッド内湿度の経時変化の例

術側パッド内は、健側に比べて高温高湿であること、パッドの素材・構造・形状の改良により、不快感を軽減できることがわかった。



当初予想していなかった意外な展開

被服学と看護学の研究者が連携して喫緊の課題の解決にあたらうとする試みに対し、国内外の術後用製品を製造・販売する企業、医療関係者、患者会等より予想以上の協力を得た。

とくに、多くの患者・体験者の積極的な参画によって、質問紙調査や被験者実験が実現できた。公開で開催した研究成果報告会にも、研究者に加え、患者・体験者、企業、乳がん看護師、新聞・出版社等、多くの参加があったことから、この研究課題に対する社会的要請と関心の高さが改めて示された。

今後期待される波及効果、社会への還元など

自分らしいおしゃれがQOL向上に役立つことが広く認識され、社会と関わりながら乳がんと共に生きる女性がおしゃれを楽しめるよう、術後のニーズに沿った衣服の開発や衣生活に関わる情報提供に貢献できると期待される。